

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100073		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	生協のんびり村 グループホームほんわか		
所在地	愛知県東海市加木屋町栗見坂12-1		
自己評価作成日	平成22年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年 7月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2394100073&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2394100073&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 1月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境を活かした生活づくりをしている。鶏を飼う、干し柿をつくる、近所の人にみかん狩りをさせて頂くなど。  
 入居者が内に閉じこもらず、外に出る機会を設けるようにしている。  
 入居者のなじみの場所、行きたいところなどを探して出かけている。  
 職員は前向きにお互いを認め合って仕事をしている。  
 入居者様のできることを役割としている。畑仕事、習字、料理など。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南医療生協グループの経営する施設の1つ、「生協のんびり村」の中に設置されたホームである。平成20年11月開所の、開所1年足らずの真新しい建物で、職員も利用者もようやくホームに慣れて来た時期であろうか。幹線道路から奥まった農地を造成した、恵まれた採光と騒音・振動に全く緑のない環境で、利用者・職員とも、「のんびり」とその日その日を楽しんでいる姿がうかがえる。その中でも、庭先の空きスペースを利用した家庭菜園、手作り小屋での雌鶏飼育は、収穫の楽しみと実益を兼ねており、利用者や職員に癒しと潤いをもたらしているようである。  
 また、利用者家族・生協会員等の外部からの支援者も多く、手作りのウッドデッキ、家庭的な持ち寄りの家具など、ホーム内外の環境を施設的にしない取り組みに、一役も二役も買っていたい。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念をつくったが、まだ浸透していない。「グループホームほんわか」では、「入居者様も職員も色々なことにチャレンジする」と決まった。</p>	<p>「入居者一人ひとりの人権の尊重と、地域とのきずな」を掲げているが、現時点では職員の中の認識度はやや薄い感がある。</p>	<p>基本理念は簡潔・明快にし、職員全員が常に意識し、実践できる事が望ましい。今一步の工夫を期待するところである。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流をしている感覚は薄い。市民館に顔を出したり、小学生や中学生の体験受け入れなどは行った。</p>	<p>開所から日が浅いこともあり、地区自治会には未加入であるが、交流は徐々に増して来ており、地域行事の案内があれば積極的に参加する意気込みがある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症サポーター養成講座を開催したり、ボランティアに向けて認知症介護の話をしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での話し合いでの意見があまり出していない。</p>	<p>概ね2か月に一度、地区自治会代表・包括支援センター職員・市民館館長・利用者家族代表の参加の下に隣接する地域交流館で開催している。利用者の日常紹介、活動報告を中心議題にし、併せて意見要望の聴取を行っている。</p>	<p>まずは制度どおりの運用を目指し、会議メンバーに利用者本人の参加が望まれる。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村にこちらから状況を伝えることはなく、時々調査やアンケートが来る程度。</p>	<p>市との関係構築はこれからの課題となっている。管理者は関連施設も含んだ「生協のんびり村」全体の管理の役割も担っており、関連施設も含んだ係わりを模索している。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないよう努めているが、職員の体制と入居者様の状態により玄関に施錠することがある。又、言葉で「～ダメ」、「ちょっと待って」などが出てしまう。</p>	<p>利用者の状況により、過去には玄関施錠を行ったこともあったが、基本的には無施錠を実践しており、玄関及び居室からは自由に入出入りできる。また、職員に対する身体拘束についての意識付けも始まっている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はしていない。高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会には設けていない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を知らない職員もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しているつもり。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	している。	利用者との日常会話、家族訪問時の接触の中で意見・要望・苦情を聞き出し、検討を要するものは職員会議等で協議を行い、運営に反映させている。	忌憚のない家族意見聴取の機会として、家族会の結成を促し、家族間の情報交換を図る場造りの工夫を提案したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や必要に応じて話し合いの時間を設けている。	日々のミーティングや毎月の職場会議における話し合いの中で、職員の意見・要望・提案を聞き出すようにしている。職員ヒアリングにおいても、ホームの体制に改善の意見はない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人の規定による。個人の努力や実績が少し反映されるようになってきている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	やっちはいるが、参加できる職員が限られている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常勤職員はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象であるかどうかの判断をさせて頂くとともに、対象外であると判断した場合には他のサービスを紹介している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やっている。制服を職員が着ていないのもその表れである。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	やっている。昨年の正月はグループホームほんわかに残った入居者様は殆どおみえにならなかった。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。買い物や親せき、兄弟のところなどに出かけている。	利用者の馴染みの店への買物支援、親戚宅への訪問支援など、出来る限りの要望に応えている。地域からの利用者も多く、生活の継続も視野に入れた取り組みがある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者を気遣う入居者様がおみえになるし、そういう関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス開始前にいったん断られても、時間を置いてその後の状況を尋ねた。又、サービス終了後の方は通っているデイサービスに様子を見に行ったことがある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者様の気づきや要求を引き出し、共有している。	利用者の希望や意向に沿って、書道、絵画、手芸、料理等利用者それぞれの得意な分野を実践できるように支援しており、自由な活動の中から日々の生活に潤いをもって生きている姿がうかがえる。	近隣の学校に働きかけて、書・絵画・手芸などの作品交換展示会の開催等、地域交流にもつながる取り組みへの検討を提案したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中でご本人と会話したり、家族がおみえになった際に尋ねている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が利用者様の状態を把握し、できることを引き出している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在進行中。職員の担当利用者様を決めて介護計画を作成していく。	計画作成者(ケアマネジャー)は、隣接する施設(小規模多機能ホーム)の担当が兼務しているため、細かい点まで観察できない面がある。この事を課題として、現在は利用者担当制の検討を始めている。	介護計画づくりは、日々の利用者の状況を熟知している者を中心として話し合うことが望ましいことから、現時点での課題把握から課題改善の早急の取り組みが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の記録は介護の実践に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カニが食べたい方とはカニを食べに出かけ、パチンコがしたい方とはパチンコへ、家に帰りたい方とは家まで一緒に行くなど手厚くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの店、行きたい場所などに出かけている。又、地域の組合員の協力も得てみかん狩りを行ったり、畑の土をおこしたりした。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をするように努めている。又、相談して他の病院なども紹介してもらっている。	入所時のアセスメントにおいて利用者各人のかかりつけ医を把握し、同時に法人母体の医療機関利用の承諾を得ている。母体医療法人の対応が、利用者・家族の安心になっているケースも多く、その期待に応える医療支援を実践している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、生協のんびり村内に看護師がいるので、必要に応じて相談したりしてもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の病院に入院することが多いので、協力関係が築きやすい。又、入院した際は、病棟が困ること、認知症が進行するのを防ぐこともありできるだけ早く退院するようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の基準として車いすは考えていないので、重度化する場合は退去が基本。そうなった時には再度家族に説明をする。	利用者の中には既に自立歩行が困難になり、手引きによる歩行介助が必要となった利用者もあり、重度化してきた場合の方針作成は急務となっている。	方針の文書化を進め、契約書・重要事項説明時には、特別事項としての説明も望まれる。「何とかしてくれる」の、利用者・家族の気持ちに応えられる様に、退所先・退所後の支援にも配慮した取り組みが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の訓練はしていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしたが、夜間は課題であると思われる。地域には組合員やボランティアがいるので、協力して頂ける。	消防署へのホットラインは設置しており、緊急連絡体制は整っている。隣接する施設と合同で、昼間の避難訓練を実施し、課題把握を図っている。	「生協のんびり村」全体では多くの高齢者の生活があり、早い時期に協力体制を整えて万全を期すことが望まれる。「～だろう」「～のはず」ではない、体制確立の実現が必要と言える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しているつもりだが、場合によってはできていない。現場のストレス、それまでの状況によって気を遣ってもできないことはあって当然。しかし、言ってしまった、やってしまったという自覚は必要。	出来る限り利用者の尊厳を損ねない努力をしている。利用者毎の特性・性格を全職員で把握し、同対応で支援できる取り組みを進めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているつもり。職員によっては、利用者様の考えを聴かないで、別の職員の意見などを聞くことが見られる。そういう場合は、ご本人に尋ねるように管理者が指示を出している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はご本人の希望に副うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に副うようにしている。利用者様によって、化粧品を一緒に買いに出かけたり、服を選びに行くこともしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している！	食材の買出し・調理・味付けなどあらゆる場面に利用者が登場し、毎回の食事作りを楽しんでいる。利用者の好みに合わせた献立を職員が考え、大家族の雰囲気での食事時間となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ばっちりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、歯磨きを促し、必要に応じて援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現時点での対応はできている。	基本的にはトイレでの排泄を基本としており、おむつから「布パンツ+尿パット」へ向上した利用者もあり、支援の効果が見られる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる範囲で運動、水分を多く摂るなど行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	している。	風呂の準備は毎日行っている。利用者は1日おきに入浴するパターンが多く、その時間的な余裕の中で、できる限り希望に沿った支援を行っている。また、職員の勤務シフトや配置の兼ね合いで、安全確保を優先し、夕食前に入浴を済ませるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームほんわかの得意な分野である。料理、片付け、掃除、縫物、ものづくり、買い物、外出、習字、絵など		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームほんわかの得意な分野。これまでも、紅葉が見たい、カニが食べたい、自宅に帰りたい、買い物に行きたいなどの声に応えている。	「のんびり村」の広い敷地を活用し、日常的に散歩を楽しめる環境にあり、利用者の自由な出入りが見て取れる。その他、車による外出は、利用者の意向を汲み取り、観光、飲食、帰宅などに応じているほか、日常の買い物時には希望者を募り、一緒に出かける支援もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はお金を持っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分でできる方、援助があればできる方にはやっています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が苦勞しながら頑張っている最中。花や絵、書を飾る、落ち着けるように広い空間を仕切る、暖簾をかけるなどしている。	書の得意な利用者の作品の掲示は「壮観」の一言である他、居間壁面に飾ったキルト画には季節を感じるアレンジが施され、生き活きと活動する利用者の姿が想像できる。また、南向きの日当たりのいい居間、手作りのウッドデッキ、程よい採光で明るい廊下等、共有空間の環境として何ら問題は感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している。広くて落ち着かない空間を仕切る、廊下の隅にテーブルといすを置いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望にはなっていない。もっとご自分のなじみのものや大切な物をたくさん持ってきて、生活感を出して頂きたい。	各居室は全て天然木使用の採光・通気に恵まれ、十分な広さの快適なスペースである。しかし、利用者ほとんどが僅かな身の回り品を持ち込んでいる程度で、生活の継続を考えた環境であるとは言いがたい状況もある。	家族・関係者にグループホームの生活のあり方を伝え、事例を提示する等のさらなる働きかけが望まれる。今回の外部評価結果を通し、再度の説明も有効であると思われる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が努力している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人としての理念、事業所としての理念をつくったが浸透できていない。	事業所の理念を元に職員全員が常に意識できるような目標を作り、その目標を全員で共有し実践していく。	職員全体で話し合いの場を設け、分かりやすく全員が共有できる目標をつくる。	1ヶ月
2	26	職員の担当利用様がまだ決まっていない。	職員の担当利用者を決め、担当職員の意見や提案を反映させた課題把握・設定をする。	職員全員に担当利用者を割り振り、職員会議の際にそれぞれの担当職員から現状の問題点、課題を出してもらう。	1ヶ月
3	4	運営推進会議に利用者本人が出席できていない。	運営推進会議へ利用者本人に出席をしていただき発言をお願いする。	利用者様に運営推進会議参加のお願いをし、当日運営推進会議と一緒に参加をして頂く。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。